

※第1回 学校評価(自己評価)実施期間:平成23年7月8日~13日 (保護者アンケート回収率:89%)

※ポイントの数値は「アンケートによる4段階評価」の平均値である。評価はA(3.2[80%]以上), B(2.8[70%]以上3.2[80%]未満), C(2.8[70%]未満)で示した。

但し, 児童, 保護者の評価結果等と併せて考察を加えた結果, 数値とは異なる評価をしている項目(※印)もある。

※アンケート回答は, 教職員, 児童, 保護者とも, 1(全く当てはまらない), 2(あまり当てはまらない), 3(当てはまる), 4(よく当てはまる)の四択である。

自己評価				学校関係者評価					
評価項目		ポイント (1~4)	評価	教職員・保 護者・児童 総合評価	自己評価についての説明	意見			
方針	1	学校教育目標, めざす子ども像の内容を十分理解している。	3.4	A	職員は校長の学校経営方針を十分に理解している。その具現化のために学年・学級目標を設定し, さらに綿密な学級経営案を作成して日々教育活動に励んでいる。 一層, 児童と教師の信頼関係を築き, 学力の向上に努めていきたい。	学校では友人関係づくりが大切だと考えます。コミュニケーションがうまくできていない子どもも見受けられますので, 集団活動を通じて望ましい友人関係や他者とのコミュニケーション能力を育ててほしいと思います。			
	2	めざす子ども像は, 児童にも理解させている。	3.1	B					
教職員	3	学校教育目標にそった学年目標を設定し学年経営ができています。	3.5	A					
	4	学年教育目標にそった学級目標を設定し, 児童に具体的に指導できている。	3.4	A					
	5	学級担任と児童, 児童同士の信頼関係や仲間作りができています。	3.0	B					
保護者	保1	学校は, 児童が「めざす子ども像」の各学年学級目標に示された姿になるよう取り組んでいる。	3.1	B					
	保10	先生たちは子どものよいところなどよく知っている。	3.2	A					
学年・学級経営	6	教育課程の進捗及び, 指導時数は適切である。	3.5	A			今年度は, 新学習指導要領に沿って, 指導計画簿を活用し, 進捗・授業時数を確認しながら日々の教育活動を展開している。 教材研究, 授業改善によって, 児童が意欲的に授業に臨んでいることが分かる。そのことに満足することなく, より一層子どもたちのため授業の工夫改善に努める必要を感じる。	計画を立てたり, 準備したりするのに教師が十分な時間を確保できるようにすると思います。 授業は教育課程のマニュアルに沿って行われているが, 授業改善の項目等の教師自身の評価がB評価となっているので, 授業に対してさらに創意工夫してほしい。	
	7	週案をもとに授業の計画や反省を行い, 定期的に提出している。	3.0	B					
	8	教材研究を十分に行い授業改善に努めている。	3.0	B					
	9	体験的な学習や問題解決的な学習等により授業を工夫している。	3.1	B					
	保7	子どもは, 学校の授業はわかりやすいと言っている。	3.1	B					
	児8	先生は教え方をいろいろ工夫している。	3.7	A					
	児9	授業または勉強はわかりやすい	3.5	A					
	教育課程等	10	基礎的・基本的な内容の確実な定着に努めている。	3.7	A	昨年度までの市教委指定研究により, 全校あげての学力向上の成果は確実に上がってきた。さらに, 研究で得た成果を基盤に, その徹底を図るよう取組を継続させる。			「自己評価」のとおり研究成果を生かして, 基礎学力の定着や, 学習訓練の徹底に取り組んでほしいと思います。
		11	基礎的な学習訓練の徹底を図りながら指導している。	3.5	A				
児10 ~13		学習準備, 姿勢, 発表, 聞き方についてきちんとできている。	3.1	B					
教職員	12	情報機器の効果的な活用に心がけ, 授業改善に役立てている。	2.3	C	教育機器の活用については, 個人差が大きい。5, 6年は外国語活動において電子黒板がよく利用され楽しい授業が行われている。今後は, 教育機器を積極的に用いて, 学習意欲の向上と, 学習内容の理解に努めさせたい。 家庭学習の定着を図るには, 家庭の理解が欠かせない。家庭学習の定着を図るために, 宿題の添削や励ましを丁寧に行う努力が必要である。 「家庭学習のてびき」を2学期早々に配付しさらに強化を図ろうとしている。宿題の量については, 学年で相談して極端な差が生じないようにする。	情報機器操作に教師の個人差が大きいようだが, 関心の差なのか, 時間的に余裕がないのか, OJT(職場内・外での研修)のさらなる必要性を感じます。 習得が早い子どもの時期に, 情報機器に親しませ活用できるようになるよう指導してほしいと思います。			
	13	個に応じた指導についてグループ学習や個別学習, TT指導等の学習指導の工夫に努めている。	3.0	B					
	14	家庭学習が習慣化するための手立てを講じている。	3.1	B					
	保3	学校ではパソコンを活用した授業や地域性を生かした特色ある教育活動を行っている。	3.0	B					
保護者	保8	本校の「家庭学習のてびき」を受け, 学級で出される宿題はよく添削されている。	3.2	A					
児童	児14	宿題はきちんとやり, いつも家庭学習をしている。	3.5	A					
道徳	15	道徳の時間は, 指導計画に基づき実施し, 時数も確保されている。	3.4	A	すべての学級で授業時数が確保され, 指導計画に基づき実施された。「心のノート」の利用促進を図り, 児童の道徳性を向上させる道徳の授業を実践していく。	学校では, 知・徳・体のバランスの取れた健全な子どもの育成を図っていくことが求められますが, 知識の伝達のみでなく, 同時に情操・人間性の向上のために道徳教育等を充実させるように努めてほしい。			
	16	道徳教育は各教科等と関連を図り, 「心のノート」も活用している。	2.4	C					
	保5	学校は, 他を思いやる心や人を尊重する意識など, 子どもに道徳心を育てている。(心の教育)	3.1	B					

特別活動	教職員	17	全校の特別活動、特に学校行事は無理なく計画的に行われている。	3.2	A	A 3.2	限られた授業時数の中での厳選された行事を、工夫と改善を図りながら実施している。クラブ活動や委員会活動は異年齢集団のよさを生かして活動を行っている。	「自己評価」のとおりと進めてほしいと考えます。				
		18	クラブ活動や委員会活動では児童の指導に積極的に関わっている。	3.2	A							
特別活動	教職員	19	きれいな学校づくりのために清掃指導に積極的に関わっている。	3.5	A	A 3.3	愛校心や奉仕的精神を培うために、清掃指導や美化活動には昨年度に引き続き力を入れている。その成果は児童の姿にも少しずつ表れてきている。 読書指導は、図書ボランティアの読み聞かせの活動等が教育的効果を上げてきつつある。 給食指導では、望ましい食習慣形成のため、給食委員会の活動や学校栄養職員が定期的な食育指導を行っており、準備や後片付けもスムーズに行っている。 児童の好ましい人間関係づくりは、学級での活動だけでなく、学年の活動を通して行ったり、異年齢集団での活動(クラブ活動、委員会活動、学校行事、「フレンドリーウィーク」の活動)を行ったりして取り組んでいる。 掲示教育では、季節感があり、児童の学習の足跡がわかるような校内掲示に努めている。	以前に比べ校内が美しい花でいっぱいだと心が和む感じがします。美しい環境で学ぶために、校舎の階段や体育館の昇降口などまだごみが目につきます。さらに清掃活動に力を入れてほしいです。				
		20	読書指導は、適切に行われている。	3.6	A							
		21	食育を意識した給食指導を積極的に行っている。	3.4	A							
		22	学校における児童の好ましい人間関係の構築に努めている。	3.4	A							
		23	全校の掲示教育や教室環境は適切にできている。	3.1	B							
	保護者	保15	学校では清掃指導が行き届いており、校内はきれいである。	2.9	B							
		保16	学校は季節の花などを育て、潤いのある教育環境づくりをしている。	3.3	A							
	児童	児19	掃除の時間は、学校をきれいにしようと頑張っている。	3.3	A							
	生徒指導	教職員	24	毎月の生活目標、集団生活のための規則遵守、規範意識の高揚のために指導に力を入れている。	3.2				A	※ B 3.4	生徒指導について教職員は、全般的に力を入れて指導しているという思いが強い。 「あいさつ」は「3.6」という児童の高い自己評価にもかかわらず、保護者は「2.5」ときわめて低い評価は、昨年度の1学期の評価と同様である。 「来校者へのあいさつや登下校時のあいさつがよくない」という声が多い。PTAと連携した「あいさつは家庭から」の運動を継続して推進していきたい。 いじめ等の問題には、日ごろからの観察、アンケートや面談等で情報収集を行い、早期発見、早期対応に努めた。 担任だけで処理しないように報告、連絡、相談を行い組織的に対応している。	あいさつは以前より良くなっていると感じます。 特に高学年が元気の良いあいさつができるようになってきたと思います。 あいさつについては保護者の評価と子どもの評価に大きな差があります。なぜかを分析する必要を感じます。声をかけ続けることが大事だと思います。 学校ばかりでなく家庭のしつけとしても大事なことです。
			25	子どもの間違った行動に対しては厳しく指導している。	3.8				A			
26			子どもが学校に楽しんで登校するよう努めている。	3.6	A							
27			いじめや不登校、問題行動の早期発見、早期対応に努めている。	3.5	A							
保護者		保14	子ども達は校外でもよくあいさつをする。	2.5	C							
		保12	先生たちは子どもの間違った行動には厳しく指導してくれる。	3.2	A							
		保9	子どもは学校に通うのが楽しいと言っている。	3.4	A							
児童		児16	元気よく学校や地域でもあいさつをしている。	3.6	A							
		児19	月の生活目標・学習目標や1日のめあてを守るように気をつけている。	3.3	A							
		児6	先生は、いじめなどよくないことをしたら厳しく注意してくれる。	3.8	A							
児1	学校は楽しいことが多い	3.6	A									
健康安全	教職員	28	校内生活、校外生活の安全指導、安全管理はできている。	3.2	A	A 3.3	ボランティアの方々のおかげで登下校時の安全が確保されている。 一方、自転車による接触・転倒事故や歩行者が自転車との接触事故が数件発生しており「安全意識」を身につけさせる指導が必要である。 毎月の安全点検や日々の気づきから、危険箇所の確認と改善に努めていく。	遅刻した子どもが、学校の手前で立ち往生している様子を見ました。 遅刻しそうな子どもも安心して学校に入れるような配慮をお願いします。 自転車との接触事故については、横に広がった登下校に原因の一つがあります。2列縦隊で登下校するよう学校・家庭・地域で指導をしてください。				
		29	日々の保健指導の充実に努め、児童の健康に心がけている。	3.3	A							
	保護者	保11	学校は子どもの交通安全や登下校の安全管理に配慮している。	3.2	A							
		保17	学校は危険箇所等への配慮をし、安全管理に配慮している。	3.2	A							
	児童	児3	校内や学校の行き帰りには、交通安全のルールを守っている。	3.5	A							
相談	教職員	30	子どもの教育相談に計画的・意図的に応じている。	3.0	B	A 3.3	保護者からの相談に応じるばかりでなく、学校側から問題提起をしての相談活動も行ってきた。スクールカウンセラーを活用しての専門的なアドバイスも行っている。心のケア相談員も定期的な相談活動を行っており心強い。組織的に気軽に相談できる学校にしたい。	学校が楽しいかの質問に対して、保護者・児童ともにA評価であるのは嬉しいことです。大事な項目がA評価で一安心しました。				
	保護者	保13	先生たちは子どものことで気軽に相談にのってくれる。	3.2	A							
	児童	児4	先生は私たちの話をよく聞いてくれる。	3.6	A							

人権教育	教職員	31	人権教育・同和教育・平和に関する教育は適切に行われている。	3.2	A	A 3.2	人権・同和教育、平和に関する教育は、特定の期間に重点的な取組を行っているが、年間を通して日常的に意識させる取組をしたい。特に「人権意識アンケート」を活用した取組は2学期に実施したところである。今年度も8月9日「長崎原爆の日」には登校日を実施し、被爆体験談を聞かせる機会を設けた。	「自己評価」のとおり大切なことですので継続して実践してほしい。
	保護者	保6	学校は子どもに生命を大切にすることを育てようとしている。	3.2	A			
	児童	児20	相手の心を傷つけないように、「言葉づかい」には気をつけている。	3.3	A			
連携	教職員	32	保護者との信頼関係、連携はできている。	3.0	B	B 3.1	教育活動の効果をあげるためには、保護者と強固な信頼関係を築くことが不可欠である。家庭訪問(4月下旬～5月上旬)や、個人面談などにより早い時期から保護者との連携を図ってきた。学級通信は、学級により発行部数に差があり、未発行者には、保護者からも発行を望む声が多い。個別に指導している。学校だよりに加え、ホームページやスクールネット(加入率85%)での情報発信が保護者から高く評価されている。PTA活動へ職員の参加は年々積極的になっており、PTAの各行事や担当事業部の会合にも分担して参加している。	学校だよりや学級通信・学年だよりによって、保護者は学校の様子が変わり、保護者との信頼関係も深まるので、発行が少ない学級の保護者が発行を望むのは当然と言えます。学級通信の発行数については、学級で極端な差が出ないように発行してほしいと思います。
		33	保護者との連携を図るために定期的に学級通信等を発行している。	2.9	B			
		34	PTA活動への参加は積極的である。	3.3	A			
	保護者	保18	学校の教職員は、明るく誠実な態度で接してくれる。	3.2	A			
		保2	学校は、学校だよりや学年通信、学校だよりで教育方針や情報をわかりやすく伝えている。	3.3	A			
保20	学校行事やPTA活動の時に参加しやすい雰囲気がある。	3.0	B					
分掌等	教職員	35	職員室の机上・教室事務机机上等整理整頓の徹底に努めている。	3.0	B	A 3.3	職員室の机上整理については、重点目標に掲げた。該当者には個別に指導を図っている。各職員は係の仕事に責任を持ってあたり組織的に動いている。職員作業の際には、全職員が積極的に関わろうとする姿が見られ、協力的である。特定の職員への負担加重にならないよう配慮したい。公簿及び個人情報については定期的なチェックを行い厳重な取り扱いを徹底している。	「自己評価」のとおり進めてほしい。
		36	自分の校務分掌の職務遂行を積極的に行っている。	3.3	A			
		37	表簿は、適切に記録、整理、保管されている。	3.6	A			

【備考】

○学校関係者評価委員会

学校評議員(4)、校区自治会長代表(1)、校区社会福祉協議会会長(1)、校区健全育成会会長(1)、校区婦人会会長(1)PTA会長(1)を委員とし、学校側からは校長、教頭が参加します。

☆関係者評価委員の方々には事前に、学校による「自己評価」に関する説明資料を配付しました。

☆「自己評価」については異論はなく、「妥当である」との評価をしていただいています。そのうえで、各項目に対するご意見をいただきました。

☆学校では、「自己評価」を生かすべく、すでに夏季休業中にまとめられた「2学期学校経営方針」に基づいて、学年学級経営案を作成し実践を行っています。これに加えて、今回の学校関係者評価委員会のご意見を生かしながら学校経営を充実させてまいります。